

[GRAPEVINE]

ブドウ・ワイン学アメリカ学会第42回年次大会 (シアトル大会) 参加報告

ASEV第42回年次大会

ASEV 年次大会は、アメリカ合衆国ワシントン州シアトル市 Washington State Convention & Trade Center で6月20日～22日の3日間行われた。研究発表は、例年の通り、口頭とポスター・セッションの両方で行われた。ポスター・セッションでは、ブドウ栽培関係14題、ワイン醸造関係22題；口頭ではワイン醸造関係21題、ブドウ栽培関係39題、合計96題の発表がなされた。

2グループの日本部会会員が本大会で発表した。福田保司（サントリー、カルフォルニア大学デイビス校大学院在学中）氏は「Y. Fukuda, E. K. Trousdale, and R. B. Boulton (UC Davis) : Effects of treatment upon protein profiles」という題目で、また高橋利郎（国税庁醸造試験所）氏は「T. Takahashi and A. Totsuka (Natl. Res. Inst. of Brewing) : Regeneration of haploid-grapevines from callus made by another and nonfertilized ovule culture」というテーマで口頭発表を行った。

福田保司氏が 42nd Annual Meeting Best Student Paper Awards 受賞

カリフォルニア大学へ留学中のサントリー株式会社の福田保司氏は、第42回 ASEV 年次大会でワイン醸造部門で学生が行った発表の中で最優秀と認定され、6月22日夜のワインパーティー (Wine and Food Extravaganza) の席上、1991 Best Student Paper Awards 受賞決定の正式発表がなされた。大会派遣日本代表団一同でこの授賞を祝福した。福田氏の講演要旨は次の通りである。



Y. Fukuda, E. K. Trousdale, and R. B. Boulton (UC Davis): Effects of treatment upon protein profiles

本研究はワイン中のタンパク質の安定性に関するものである。種々のタンパク質の安定化処理とそのテスト方法について、高速液体クロマトグラフィー

(HPLC) の溶出パターンと統計学的処理 (Principle Component Analysis=PCA) によって、白ブドウの品種特性との関連を明らかにすることを試みた。

1989年収穫の14種のブドウから製造した白ワインをスクリーニングし、4品種（シャルドネ、ゲヴェルツ・トラミネー、マスカット・カネリ、ソービニヨン・ブラン）を選び実験に使用した。ワインを限外濾過（分子量1万をカットする膜を使用）してタンパク濃縮とフェノール除去を行った。濃縮したワインをHPLCで分析し15のピークを得た。各々のピーク面積、ワインのpH、フェノール濃度、タンパク質濃度についてPCA処理を行

い、タンパク質安定性との関連を検討した。

ASEV親学会役員とのディナー・パーティー

6月21日夜7時より9時半まで、ASEV親学会役員をシアトル・シェラトン・ホテルに招き、ディナー・パーティーを行った。日本側からは訪米代表团全員が出席し、アメリカ側からは、Peter Christensen 会長夫妻、Roger Boulton カリフォルニア大学教授夫妻 (Mrs. Lyndie M. Boulton がエグゼクティブ・ディレクター)、Pete Downs 第一副会長 (現会長) 夫妻、John Beuchsenstein 第二副会長 (現第一副会長) 夫妻、Jim Wolpert 博士 (ディレクター、支部連絡委員会委員長)、JoAnne Rantz 夫人 (学会誌編集者)、Lynn Vacca 氏 (ASEV 事務局スタッフ)、Pat Duffy 氏 (ASEV 事務局スタッフ)、Mark Matthews カリフォルニア大学教授夫妻 (Matthews 夫人には長年通訳を依頼) が出席した。パーティーは終始和やかな雰囲気で行進し、日米親善が達せられた。日本代表団の一人一人が英語で自己紹介し、一方アメリカ側出席者の紹介が Christensen 会長からなされ、また日米双方の会長から相手側出席者全員に記念品が贈呈された。

Chapter Liason Committee (支部連絡委員会)

6月22日午後3時より、大会会場の一室で Jim Wolpert 委員長と各支部の役員が集まり、支部連絡委員会が行われた。カナダ・アメリカ東部支部代表から、学会の運営がカルフォルニアサイドに偏り過ぎているとの指摘があった。これを受けて、筆者は、アメリカ東部と日本はブドウ栽培の気象条件が類似しているので、「高温多湿の気象条件におけるブドウ栽培とワイン醸造に関するシンポジウム」を年次大会の中で開催するように企画してはどうかと提案した。そのほか、会費値上げの抑制、アメリカ西海岸以外での大会開催の可能性、各支部の会員数、財政状況、などについて討論がなされた。

(エグゼクティブ ディレクター 横塚弘毅 記)